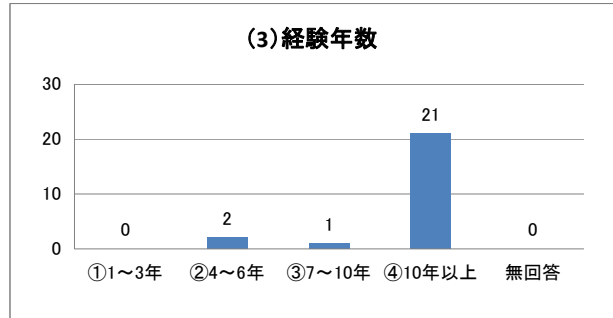
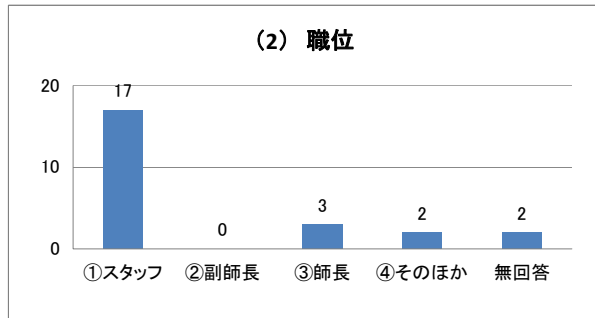
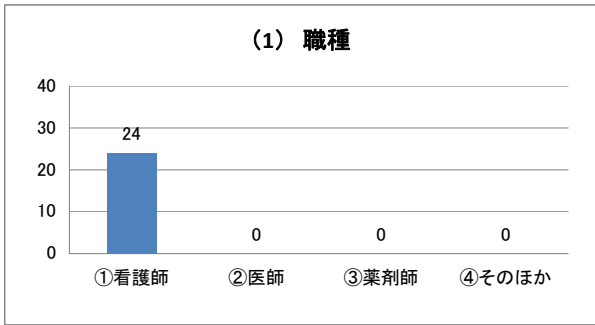


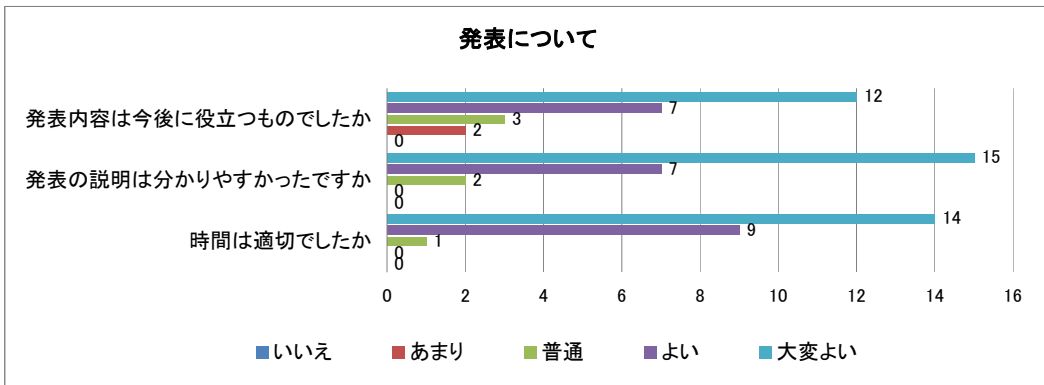
# 『第5回岡山県がん診療連携協議会がん看護部会交流会』 アンケート結果

2012年7月21日(土)実施  
回収率: 72.7(24/33名)

1. 所属をお聞きます(該当番号に○印をしてください。回答は可能な範囲で結構です)。



2. 今回の交流会全般についてお聞きます。(該当番号に○印をして、感想を記入してください)

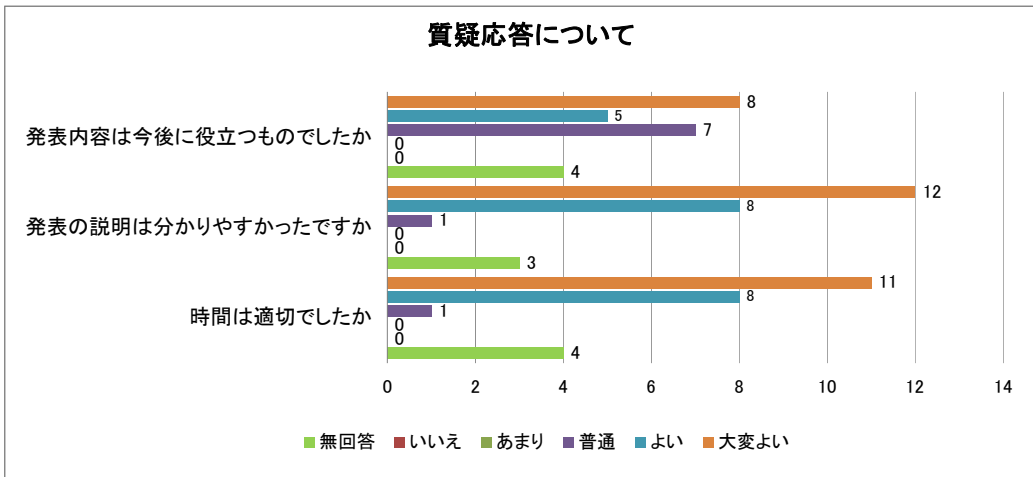


## 【感想】

- \* 時間は実際に講演をされた時間位は必要かと思えます。予定は20分でしたが、少なく、オーバーであったようですが、30分位?が必要だったと思えます。「がん看護部会」知ることができてよかったです。ありがとうございます。今後の活動に期待しています。参加協力もしていきたいです。
- \* 専門的分野をそれぞれの病院から認定看護師さんが説明していただいて、わかりやすく、楽しい会話を聞かせていただいてよかったです。一体感があって頼もしく感じました。
- \* がん治療を受ける患者さんの化学療法をはじめ集学的治療を受ける患者さんについての治療・看護の実際を知ることができ、勉強になりました。今後は、もっと地域と連携をとっていただき、具体的に困った事や困った時期の相談にのっていただける窓口がほしいと思えます。
- \* レスキューの使用方法等がよくわかりました。
- \* できれば資料は欲しかったです。そのほうがさらにわかりやすかったと思えます。
- \* 事例を用い理解しやすかった。今後自分たちに必要な知識だと思った。
- \* 今回、東備地区の方であるということで、参加させていただきました。わかりやすく、大変参考になりました。
- \* 事例を用いて具体的に話していただき、わかりやすかったです。看護師の役割がわかり、今後どうしていくべきか指針になりました。

# 『第5回岡山県がん診療連携協議会がん看護部会交流会』 アンケート結果

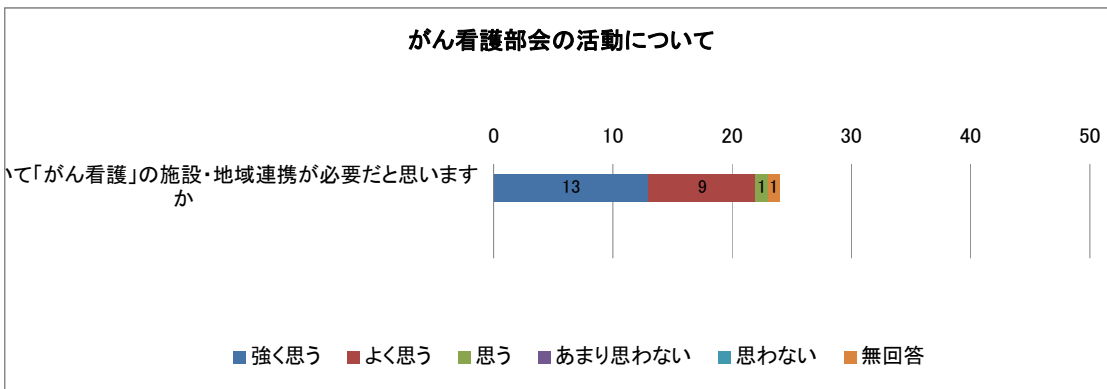
2012年7月21日(土)実施



### 質疑応答について

- \* 質疑応答の時間がもう少しあれば良かった
- \* 言葉を発しないといけない、何か言わなければならないと思うことがちがっている。非コミュニケーションあり。受け取って共有・共感すること、大切。わかっているよと相手に示すこと。地域の病院、診療所ならではの話がきけて、とても良かったと思います。
- \* 今後、総合病院と地域の病院との細やかな連携が必要だと思います。
- \* 患者との信頼関係は大切(無言でも本人は納得している)勉強会に参加することにより、色々な意見が聞けて、気づかされる事だけでした。
- \* とても意義ある時間でした。わかりやすかったです。
- \* 身近に感じれて、今後の参考にもなりました。又、これからの連携をとる上で、連絡しやすくなりました。ありがとうございます。
- \* いろいろな考え方、実践していることを話していただき、自身に不足していることが沢山あるとわかりました。

### 3. 岡山県がん診療連携協議会がん看護部会交流会についてお聞きします。 (該当番号に○印をして、感想を記入してください)



### 岡山県において「がん看護」の施設・地域連携が必要だと思いますか

- \* 病院←→在宅の関係が大切である。病棟だと、退院したらおしまいではなく、在宅につなげる連携必要。訪問看護も。外来看護師の受診時の情報も大切。その場その場で終了ではなく、サイクル大切にしたい。介護保険利用者なら、ケアマネージャーがまとめ役なのだろうか。連絡会議、担当者会議をしている。パーツパーツも大切だが、つながらないといけないと思う。
- \* もっと近隣より市民公講的に参加者が多いとよいと思う。一般の人のみならず、医療関係者においても知らない人が多い。
- \* 今回のような交流はとても大切だと思います。専門の方々の意見がきけて勉強になりました。
- \* 認定看護師の方はやはりよく勉強されていて、人間的にもすばらしい方がなっていってらっしゃると感じました。あつかましいとは思いますが、また勉強の機会をもたせていただきたいです。

### どのような連携や支援、システム等が必要だと思いますか具体的に教えてください

- \* 最新の情報発信、研修会、出前研修、相談に応じてもらえること、事例検討会
- \* 新聞や地域の公報、全病院や役場等にパンフレットやポスターにより周知の場を広める。

# 『第5回岡山県がん診療連携協議会がん看護部会交流会』 アンケート結果

2012年7月21日(土)実施

\* 大学病院・市内総合病院から在宅へ帰る場合、地域連携室、ソーシャルワーカーを通してではなく、看護面での連携がとれるように、在宅で困った時など、看護面での相談ができるルートが地域では確立されていないし、まだまだ知らない事も多く、Dr同志の以外の看護の連携システムが必要と思います。

\* 今、一番必要なのは、地域に在宅看護ができる体制作りが必要  
転院時には、お互いの病院同志の情報交換がきちんとできていることが必要

\* 交流会、講演会、連絡会の実施

\* 住んでいる地域によって受けられる医療看護にばらつきがないよう、相談出来る、今回のような交流会が又あればいいと思いました。

\* 「在宅支援」が地方は手薄だと思う。

\* いなかや離島に住む患者さんが安心して在宅で緩和ケアがうけられるのも夢ではない時代になるようにしたい→具体的にどうしたら良いのかはわかりませんが

\* ここ数年は、大きい病院から在宅へもどられる場合、退院前カンファレンスが出来るようになり、こちらも事前に情報が把握しやすくなりました。もっとスムーズに連携や支援ができればと思っています。

## その他

\* ちがった？階段が上がったため、「スタッフオンリー(案内板をみて)」のドアを開けて入って来てしまいました。

室内に入りにくい感じを受けました。会の導入としてどうか。

解錠施設の参加多く、他施設から集まっていないので、交流会にしては少し…さびしかったです。

申し込み不要がいいのかどうか。少ないようなら、声かけをすることも可能と考えられます。

(多数の施設との交流会なのか、会場施設中心か、→地域に1つターゲットをしぼる?)

\* またぜひきていただきたいです。大変勉強になりました。